

看護婦さんと生活習慣病の 誕生月チエックに取り組む

私は蒲原診療所が1963年に開設して4年後、四ツ木診療所より事務主任として転勤してきました。

蒲原診療所50周年・かばら歯科診療所30周年 第2回 坂本節子さん (元蒲原診療所事務長・健和会退職者の会)

当時の蒲原診療所は松永昂先生が所長で看護婦長は矢島登紀子さんか大越弥生さんのどちらかですが、記憶が定かではありません。その後、婦長は竹ノ内つ子さんにバトンタッチしました。事務長は渡辺病院と合併後だったこともあり、渡辺病院の渡辺宗治院長の長男である巖さんで事務職員は7人いました。毎月、



田んぼの真ん中に建てられた大看板
まだ14～5年前の話なのですが……

月末から8日迄の保険請求は、そろばん片手の手仕事で時に徹夜をすることもありました。診療所に徹夜で泊まり込んだ時、当直の看護婦さんが、古い診療所の板階段



当時はバラックのような建物でした(昭和40年)



蒲原診療所 (昭和55年)
●足立区東和3-4-15 ☎03(3605)5594

を音を立てないように上り下りしてくれ、気を配ってもらったのを今でも思い出します。働く女性は心やさしく美しいと思いました。老人健診が始まったころ、早期の発見・治療が大事と中川地域には宣伝カーを繰り出しました。後に友の会蒲原支部の副支部長になる小堀明久さん(故人)や老人クラブの会長さん(故人)から応援を受け、大いに励まされました。「病気がみつき、でも治療が……とお金の心配をされる声が聞かれる中、1969年には美濃部都政のもとで「老人医療の無料化」が実現。高齢者が安心して治療ができるようになりました。今はまた有料化され残念です。

1971年に東和2丁目にあった開設時の診療所が同じ3丁目の現在地に移り、19病床の新築診療所として生まれ変わりました。その年は私の長男が1歳の時で、同僚の今井今朝子さん(元区議会議員の今井重利さんの夫人)も子育ての真最中。職場のみなさんから子育ての支援を受け、仕事と両立できたことは大きな喜びでした。その当時の医師体制は内科の片山靖男先生、小児科の猫宮好朗先生が常勤として診療に当たっていました。その後、両先生とも開業して医師体制では苦勞の連続でした。

1974年に私たちの法人である「友和会」と柳原病院の「柳栄会」が合併。三浦聡雄先生や吉沢敬一先生が続けて着任されチーム医療が軌道に乗り、新しい医療法人である健和会のありがたさを身にしみて感じました。

三浦先生が所長の時、市民医科大学が開かれ第1回目の課題図書がキューブラロス女史の「死ぬ瞬間」でした。彼女は末期癌患者にインタビューを繰り返して「死に行く過程」を5段階にまとめ上げました。

その頃はまた、ガン患者へ告知はしない世相でしたが、彼女は告知して病を受容するまで、その人に寄り添っていく大切さを感じました。

その後、宮崎康先生の糖尿病専門外来も始まり、診療所の診療内

創立記念事業準備委員会が発足

4月19日夜、蒲原診療所50周年、歯科診療所30周年を祝う準備委員会が発足しました。この準備委員会は「記念式典」「記念誌」「文化行事」の3つのプロジェクトに分かれ、来年の3月に予定されている創立記念行事の準備に取りかかります。